

## 日本スポーツ医学財団 2022年度助成について

2022年度も、これまでのように日本臨床スポーツ医学会、日本整形外科スポーツ医学会、日本関節鏡・膝・スポーツ医学会からそれぞれ3題の研究を助成対象として申請いただきましたが、それ以外の一般からも15題の研究助成の申請を受けました。また、セミナー・シンポジウム・研究会助成の申請も1題受けました。

審査の結果、今回は研究助成6題の研究に対し助成を行うことが適正であると判断しました。

研究助成の対象は研究内容に基づいて採択されますが、上限 100 万円については申請書の内容を吟味して、適切な助成金額を決定します。

昨年度に続いて今年度も必要経費の見積もりにはいくつか疑問と課題が残されました。

まず所要経費の総金額について、100 万円にこだわる必要はなく、研究の遂行から学会発表、論文作成まで必要な金額を示していただきたいと思います。

また各項目の内訳については、できるだけ具体的に、その内容が適切であるか、審査側が客観的に審査できるように示していただきたいと思います。

設備備品は、研究の前提として基本的に既存していることが望ましく、また備品代についても不確定な要素が少なくありません。

学会発表は励行し、研究成果はぜひ英文論文化していただきたいと思います。しかしながら学会費や投稿費用が 100 万円に対して大きすぎることは、研究助成としては本末転倒であり、今回の会議で総額 30 万円程度とすることにいたしました。

人件費や謝金については、拘束時間や研究の内容を吟味して決定されるべきです。ボランティアも研究対象により内容が異なり、謝礼(単価)の客観性は乏しいのが現状です。それらを明確にする説明に基づいて助成金額が決定されるべきと考えます。

昨年度に引き続き、必要性が認められないものは削減し、また見積金額の内容が極めて曖昧な申請については申請金額の×50%～70%の助成をすることとしました。

来年度以降は、研究助成の申請にあたり申請書類の内容がより具体的で、客観性に富んだ記載になることを期待いたします。

公益財団法人 日本スポーツ医学財団 研究助成選考委員会